

別記第1号の2様式（介護職員初任者研修課程関係）

研修カリキュラム表（介護職員初任者研修課程 通信）

事業者名：株式会社ベネッセスタイルケア

※実施方法については、「実施要綱」別紙3「各項目の到達目標、評価、内容」を網羅した内容とすること。

研修カリキュラム（実施要綱別紙1）		実施計画			
講義・演習（実習）		カリキュラム名・時間数			実施内容
1 職務の理解 6 時間					1 職務の理解
	(1) 多様なサービスの理解	通学	通信	合計	(1) 講義及び演習:利用者が使える介護サービスにはどのようなものがあるかグループ討議し、発表する。
	(2) 介護職の仕事内容や働く現場の理解	3		3	(2) 講義及び演習:視覚教材を活用したうえで、具体的にどのような仕事があるのかグループ討議する。
2 介護における尊厳の保持・自立支援 9 時間		通学	通信	合計	2 介護における尊厳の保持・自立支援
	(1) 人権と尊厳を支える介護	1.5	3	4.5	(1) 講義及び演習及び通信講習:利用者の尊厳を著しく傷つける言動とその理由についてグループ討議する。
	(2) 自立に向けた介護	0	4.5	4.5	(2) 通信講習のみ
3 介護の基本 6 時間		通学	通信	合計	3 介護の基本
	(1) 介護職の役割、専門性と多職種との連携	3		3	(1) 講義及び演習:家族による介護と専門職による介護の違いについてグループ検討する。
	(2) 介護職の職業倫理	0	1	1	(2) 通信講習のみ
	(3) 介護における安全の確保とリスクマネジメント	0	1	1	(3) 通信講習のみ
	(4) 介護職の安全	0	1	1	(4) 通信講習のみ

4 介護・福祉サービスの理解と医療との連携		9 時間
(1) 介護保険制度		
(2) 障害福祉制度及びその他制度		
(3) 医療との連携とリハビリテーション		
5 介護におけるコミュニケーション技術		6 時間
(1) 介護におけるコミュニケーション		
(2) 介護におけるチームのコミュニケーション		
6 老化の理解		6 時間
(1) 老化に伴うところとからだの変化と日常		
(2) 高齢者と健康		
7 認知症の理解		6 時間
(1) 認知症を取り巻く状況		
(2) 医学的側面から見た認知症の基礎と健康管理		
(3) 認知症に伴うところとからだの変化と日常生活		
(4) 家族への支援		

4 介護・福祉サービスの理解と医療との連携		9 時間	
	通学	通信	合計
(1) 同左	1.5	2.5	4
(2) 同左	0	3.5	3.5
(3) 同左	0	1.5	1.5
5 介護におけるコミュニケーション技術		6 時間	
	通学	通信	合計
(1) 同左	2		2
(2) 同左	1	3	4
6 老化の理解		6 時間	
	通学	通信	合計
(1) 同左	3		3
(2) 同左	0	3	3
7 認知症の理解		6 時間	
	通学	通信	合計
(1) 同左	3		3
(2) 同左	0	1	1
(3) 同左	0	1	1
(4) 同左	0	1	1

4 介護・福祉サービスの理解と医療との連携	
(1) 講義及び演習及び通信講習:ケアマネジメントが利用者にもたらす効果をグループ討議・発表する。	
(2) 通信講習のみ	
(3) 通信講習のみ	
5 介護におけるコミュニケーション技術	
(1) 講義及び演習:利用者の状態・状況による対応を理解するため、利用者役と介護者役で2人一組でロールプレイングによるコミュニケーション技術を体験する。	
(2) 講義及び演習及び通信講習:専門職間でのコミュニケーションの有効性、重要性を理解し、記録、報告、連絡、相談などについてグループ討議し発表する。	
6 老化の理解	
(1) 講義及び演習:加齢・老化に伴う心身の変化についてグループで討議する。	
(2) 通信講習のみ	
7 認知症の理解	
(1) 講義及び演習:視覚教材を活用した上で、どのような対応が望ましいかグループ討議する。	
(2) 通信講習のみ	
(3) 通信講習のみ	
(4) 通信講習のみ	

8 障害の理解		3 時間
(1) 障害の基礎的理解		
(2) 障害の医学的側面、生活障害、心理・行動の特徴、かかわり支援等の基礎的知識		
(3) 家族の心理、かかわり支援の理解		
9 こころとからだのしくみと生活支援技術		75 時間
ア 基本知識の学習		10～13時間
(1) 介護の基本的な考え方		
(2) 介護に関するこころのしくみの基礎的理解		
(3) 介護に関するからだのしくみの基礎的理解		
イ 生活支援技術の講義・演習		50～55時間
(4) 生活と家事		
(5) 快適な居住環境整備と介護		
(6) 整容に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護		
(7) 移動・移乗に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護		

8 障害の理解		3 時間		
		通学	通信	合計
(1) 同左		0	1	1
(2) 同左		0	0.5	0.5
(3) 同左		1.5		1.5
9 こころとからだのしくみと生活支援技術		75 時間		
ア 基本知識の学習		10.5 時間		
		通学	通信	合計
(1) 同左		4.5		4.5
(2) 同左		0	3	3
(3) 同左		0	3	3
イ 生活支援技術の講義・演習		52.5 時間		
		通学	通信	合計
(4) 同左		1.5	2	3.5
(5) 同左		1.5	2	3.5
(6) 同左		6	0	6
(7) 同左		13	0	13

8 障害の理解	
(1) 通信講習のみ	
(2) 通信講習のみ	
(3) 講義及び演習:複数の具体的な事例を示し、障害受容についてグループで討議し発表する。	
9 こころとからだのしくみと生活支援技術	
ア 基本知識の学習	
(1) 講義及び演習:適切なサービス提供のために必要な視点や理論や根拠にはどのようなものが考えられるかグループで検討し、発表をする。	
(2) 通信講習のみ	
(3) 通信講習のみ	
イ 生活支援技術の講義・演習	
(4) 講義及び演習及び通信講習:家事援助に関する基礎知識をもとに、多様な生活習慣や価値観の違い中の支援のあり方についてグループで討議し発表する。	
(5) 講義及び演習及び通信講習:快適な居住環境を整備するうえでの、居住内で起こりうる事故と安全対策についてどのようなものが考えられるかグループで検討し発表をする。	
(6) 講義及び演習:利用者役と介護者役で2人一組で、洋服や浴衣を用い、利用者の自立に向けた着脱方法を考え実技演習する。	
(7) 講義及び演習:車いすや杖を用い、利用者役と介護者役で2人一組で、利用者の自立に向けた移動・移乗方法の方法を考え実技演習する。	

(8) 食事に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	
(9) 入浴、清潔保持に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	
(10) 排泄に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	
(11) 睡眠に関するところとからだのしくみと自立に向けた介護	
(12) 死にゆく人に関するところとからだのしくみと終末期介護	
(実習)※ (50～55時間中12時間以内)	
介護実習 ○時間	
ホームヘルプサービス同行訪問 ○時間	
在宅サービス提供現場見学 ○時間	
ウ 生活支援技術演習 10～12時間	
(13) 介護過程の基礎的理解	
(14) 総合生活支援技術演習	

(8) 同左	6	0	6
(9) 同左	6	0	6
(10) 同左	6.5	0	6.5
(11) 同左	3	0	3
(12) 同左	3	2	5
(実習)※	0 時間		
ウ 生活支援技術演習	12 時間		
	通学	通信	合計
(13) 同左	2	0	2
(14) 同左	10	0	10

(8)	講義及び演習:食事に関する知識、環境整備、福祉用具、食事形態、食事にかかる様々な事柄、口腔ケアの定義、誤嚥性肺炎の予防について学習する。実技演習では持参したお弁当を用い、姿勢を変えたり、アイマスク等で視覚を遮った状態での演習と口腔ケアでは歯模型を使い磨き方を演習する。
(9)	講義及び演習:簡易浴槽やお湯やタオルを用い、利用者役と介護者役で2人一組で、利用者への自立に向けた入浴・清潔保持の方法を考え実技演習する。
(10)	講義及び演習:ポータブルトイレやおむつを用い、利用者役と介護者役で2人一組で、利用者への自立に向けた排泄方法を考え実技演習する。
(11)	講義及び演習:利用者役と介護者役で2人一組でベッドを用いてベッドメイキングや体位変換など利用者の自立に向けた睡眠方法を考え実技演習する。
(12)	講義及び演習及び通信講習:終末期において介護職はどのような対応が望ましいかグループ討議し、発表する。
(実習)※	
ウ 生活支援技術演習	
(13)	講義及び実技演習:介護過程のプロセスの中で根拠のある支援とは何かグループ討議し、発表する。
(14)	講義及び演習:複数の具体的な事例を示し、介護過程の展開方法をグループ討議し、実技演習する。

10 振り返り		4 時間		10 振り返り		4 時間		10 振り返り	
			通学	通信	合計				
(1) 振り返り		(1) 同左	2	0	2	(1) 講義及び演習:介護職として重要な視点・姿勢についての要点をグループ討議でまとめ、発表する。			
(2) 就業への備えと研修修了後における継続的な研修		(2) 同左	2	0	2	(2) 講義及び演習:次のステップへ高めるため継続して学習・研鑽する課題をグループ討議し、発表する。			
追加カリキュラム									
計 (130 時間)		計 (130 時間)		計 (130 時間)					

※「9 こととからだのしくみと生活支援技術」内で実習を行う場合、1 2時間以内とする。